

復興に向かう被災地と私たち

「海と生きる」気仙沼の人々への支援を考える

3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方、とりわけ大規模な津波に襲われた岩手、宮城、福島3県の沿岸地域に壊滅的と形容される甚大な被害を与えました。宮城県気仙沼市も例外ではありません。死者・行方不明者は、市の50人にひとりに及ぶ1400人余り、家屋の3分の1が全半壊などの被害を受けました。産業への影響も大きく、市内にある4万余りの事業所のうち3300以上が被災。基幹産業である漁業を支える漁船も、3566隻のうち約3000隻が被害を受けました。しかし、徐々に復興に向けた動きも広がっています。気仙沼市では、震災復興会議などを設置、10月7日には「海と生きる」をサブタイトルとして復興計画を策定、発表しました。被災地のひとつ、気仙沼では復興に向けてどのような道筋を描いているのか理解するとともに、関西で生活する私たちにどのような支援が可能なのかなどについて検討するために、共生社会東日本地震被災者救援・支援の会は、大阪市立大学大学院創造都市研究科都市共生社会研究分野との共催で、以下のようなシンポジウムを開催することにしました。なお、ゲストの菅原明彦氏は、社長を務める酒造会社、男山が大きな被害を受けながらも操業を続け、復興計画の策定にも関わってきました。自身の被災と復興に向けた経験も含め、お話をいただく予定です。

お忙しいとは思いますが、ぜひ、ご参加ください。なお、このシンポジウムは、都市共生社会研究分野の入試広報の一環として実施するため、プログラム終了後、簡単な入試説明会を行わせていただきます。

★日時

2011年11月2日(水)午後6時30分～9時

★場所

大阪市立大学大学院
梅田サテライト101教室
大阪駅前第2ビル6階
(JR北新地駅真上)

★基調報告

菅原明彦(写真右)

気仙沼商工会議所 副会頭
気仙沼市震災復興会議 委員
株式会社男山本店 代表取締役社長

★司会

柏木宏

大阪市立大学大学院 教授

参加無料、予約は不要。どなたでもご参加いただけます。

お問い合わせ：

E-mail: info@co-existing.com Tel: 080-6107-9099

「気仙沼市震災復興会議とは？」

宮城県気仙沼市では、東日本大震災からの復興に向け、2011年9月の「気仙沼市震災復興計画」策定をめざし、6月6日に市長を本部長とする「気仙沼市震災復興計画策定本部会議」を設置。これにあわせて、学識経験者と同市の総合計画審議会委員からなる「気仙沼市震災復興会議」が設けられた。学識経験者は、復興を進める上で重要な柱として想定される都市計画、水産業及び地場産業の再生、新たな産業の振興、防災、地域コミュニティなどの論点に沿って、選任された。気仙沼市の総合計画審議会委員は、同市の将来を見据えた検討に向けて、市の総合計画との整合を図ることが必要なため、同審議会から会長・副会長及び各部会長を選任した委員から選出。「気仙沼市震災復興会議」は、6月から9月までに6階の会議を開催、10月7日に「気仙沼市震災復興計画」を発表した。



「共生社会東日本地震被災者救援・支援の会」とは？

共生社会東日本地震被災者救援・支援の会は、大阪市立大学大学院都市共生社会研究分野 (<http://co-existing.com/>) の教員、大学院生、修了生を中心に、東日本大震災後、設立された団体です。宮城県気仙沼市を中心に、被災者の生活や地域の復興を支援するための活動を行っています。大阪市などとともに協議体を作り、大阪府の新しい公共支援事業に申請、補助金を受けました。今回のシンポジウムは、この補助金事業として実施します。支援の会についての詳細は、以下のサイトをご覧ください。

▼ <http://www.justmystage.com/home/ptakorabo/kyouseisyakai/kyouseitop.html> ▲